

表 1-1 ラジアル軸受の呼び寸法記号, 特性記号の幾何特性記号, 指定条件記号の説明と従来用語との比較

呼び寸法記号 ¹⁾	特性記号 ¹⁾	幾何特性記号及び指定条件記号 ²⁾	説明 ³⁾	従来用語 ⁴⁾
B			呼び内輪幅	呼び内輪幅
	VBs		対称形軌道輪 内輪幅の2点間サイズで, 最大値と最小値との差(範囲サイズ)	内輪幅不同
			非対称形軌道輪 内輪内径から導き出したデータム軸直線を通る任意の縦断面において, 相対する平行2直線で内輪幅を挟み込んだ(最小外接サイズ)ときの, 最大値と最小値との差(範囲サイズ)	
	ΔBs		対称形軌道輪 内輪幅の2点間サイズで, 呼び寸法に対する寸法差	実測内輪幅の寸法差
			非対称形軌道輪, 上の許容差 内輪内径から導き出したデータム軸直線を通る任意の縦断面において, 相対する平行2直線で内輪幅を挟み込んだ最小外接サイズで, 呼び寸法に対する寸法差	
			非対称形軌道輪, 下の許容差 内輪幅の2点間サイズで, 呼び寸法に対する寸法差	
C			呼び外輪幅	呼び外輪幅
	VCs		対称形軌道輪 外輪幅の2点間サイズで, 最大値と最小値との差(範囲サイズ)	外輪幅不同
			非対称形軌道輪 外輪外径から導き出したデータム軸直線を通る任意の縦断面において, 相対する平行2直線で外輪幅を挟み込んだ(最小外接サイズ)ときの, 最大値と最小値との差(範囲サイズ)	
	ΔCs		対称形軌道輪 外輪幅の2点間サイズで, 呼び寸法に対する寸法差	実測外輪幅の寸法差
			非対称形軌道輪, 上の許容差 外輪外径から導き出したデータム軸直線を通る任意の縦断面において, 相対する平行2直線で外輪幅を挟み込んだ最小外接サイズで, 呼び寸法に対する寸法差	
			非対称形軌道輪, 下の許容差 外輪幅の2点間サイズで, 呼び寸法に対する寸法差	
C₁			外輪の呼びフランジ幅	呼び外輪フランジ幅
	VC1s		外輪のフランジ幅の2点間サイズで, 最大値と最小値との差(範囲サイズ)	外輪フランジ幅不同
	ΔC1s		外輪のフランジ幅の2点間サイズで, 呼び寸法に対する寸法差	実測外輪フランジ幅の寸法差
d			円筒穴の呼び内径, 又はテーパ穴の理論小端部の呼び内径	呼び内径
	Vdmp		円筒穴の任意の複数の横断面において, 内径の(2点測定から得た)中間サイズの最大値と最小値との差(範囲サイズ)	平面内平均内径の不同
	Δdmp		円筒穴 任意の横断面において, 内径の(2点測定から得た)中間サイズと呼び寸法との寸法差	平面内平均内径の寸法差 テーパ穴の理論上の小端における平面内平均内径の寸法差
			テーパ穴 理論小端部において, 内径の(2点測定から得た)中間サイズと呼び寸法との寸法差	
	Vdsp		円筒穴 又は テーパ穴の任意の横断面において, 内径の2点間サイズの最大値と最小値との差(範囲サイズ)	平面内内径不同
	Δds		円筒穴の2点間サイズで, 呼び寸法に対する寸法差	実測内径の寸法差
d₁			テーパ穴の理論大端部の呼び内径	テーパ穴の理論上の大端における基準直径
	Δd1mp		テーパ穴において, 理論大端部の内径の(2点測定から得た)中間サイズで, 呼び寸法に対する寸法差	テーパ穴の理論上の大端における平面内平均内径の寸法差

注 1) JIS B 0124で規定している記号。

また, 各特性の許容差及び許容値は, 例えば, t_{VBs} のように, イタリック体の“t”に続く特性記号で表される。

2) JIS B 0420-1及びISO 1101で規定している記号。JIS B 1514-1:2017附属書Dを参照。

3) JIS B 0022, JIS B 0420-1及びISO 1101を基にした説明。

4) JIS B 1514-1:2006の用語

呼び寸法 記号 ¹⁾	特性 記号 ¹⁾	幾何特性記号及び 指定条件記号 ²⁾	説 明 ³⁾	従来の用語 ⁴⁾
D			呼び外径	呼び外径
	VDmp		任意の複数の横断面において、外径の(2点測定から得た)中間サイズの最大値と最小値との差(範囲サイズ)	平面内平均外径の不同
	ΔDmp		任意の横断面において、外径の(2点測定から得た)中間サイズと呼び寸法との寸法差	平面内平均外径の寸法差
	VDsp		任意の横断面において、外径の2点間サイズの最大値と最小値との差(範囲サイズ)	平面内外径不同
	ΔDs		外径の2点間サイズで、呼び寸法に対する寸法差	実測外径の寸法差
D₁			外輪のフランジの呼び外径	呼び外輪フランジ外径
	ΔD1s		外輪のフランジ外径の2点間サイズで、呼び寸法に対する寸法差	実測外輪フランジ外径の寸法差
	Kea		内輪内径から導き出したデータム軸直線に対する、軸受組立品の外輪外径のラジアル円周振れ	外輪のラジアル振れ
	Kia		外輪外径から導き出したデータム軸直線に対する、軸受組立品の内輪内径のラジアル円周振れ	内輪のラジアル振れ
	Sd		内輪内径から導き出したデータム軸直線に対する、内輪側面のアキシャル円周振れ	内輪の軸線に対する内輪側面の直角度
	SD ⁶⁾		外輪側面から導き出したデータム平面に対する、外輪外径の中心線の直角度	側面に対する外輪外径面の直角度
	SD1 ⁶⁾		外輪のフランジ背面から導き出したデータム平面に対する、外輪外径の中心線の直角度	フランジ背面に対する外輪外径面の直角度
	Sea		内輪内径から導き出したデータム軸直線に対する、軸受組立品の外輪側面のアキシャル円周振れ	外輪のアキシャル振れ
	Sea1		内輪内径から導き出したデータム軸直線に対する、軸受組立品の外輪のフランジ背面のアキシャル円周振れ	外輪フランジ背面のアキシャル振れ
	Sia		外輪外径から導き出したデータム軸直線に対する、軸受組立品の内輪側面のアキシャル円周振れ	内輪のアキシャル振れ
SL			テーパ穴において、理論大端部の呼び内径と理論小端部の呼び内径との差(d_1-d)	—
	ΔSL		SLの、呼び寸法に対する寸法差	—
α			テーパ内輪内径の呼び円すい台角度 ⁷⁾	テーパ穴の基準テーパ角度の1/2
T			軸受の呼び組立幅	呼び組立幅
	ΔTs		軸受組立幅の最小外接サイズで、呼び寸法に対する寸法差	実組立幅の寸法差
T₁			マスター外輪と内輪サブユニットとを組み合わせたとときの、呼び有効幅	内輪サブユニットの呼び有効幅
	ΔT1s		(マスター外輪と内輪サブユニットとを組み合わせたとときの)有効幅の最小外接サイズで、呼び寸法に対する寸法差	内輪サブユニットの実有効幅の寸法差
T₂			マスター内輪サブユニットと外輪とを組み合わせたとときの、呼び有効幅	外輪の呼び有効幅
	ΔT2s		(マスター内輪サブユニットと外輪とを組み合わせたとときの)有効幅の最小外接サイズで、呼び寸法に対する寸法差	外輪の実有効幅の寸法差

注 1) JIS B 0124で規定している記号。

また、各特性の許容差 及び 許容値は、例えば、 t_{VBs} のように、イタリック体の“t”に続く特性記号で表される。

2) JIS B 0420-1 及び ISO 1101で規定している記号。JIS B 1514-1:2017附属書Dを参照。

3) JIS B 0022, JIS B 0420-1 及び ISO 1101を基にした説明。

4) JIS B 1514-1:2006の用語

5) 重力方向記号、固定部品記号 及び 可動部品記号は、ISO/TS 17863による。

6) SD 及び SD1は、データムである外輪側面 又は 外輪のフランジ背面に対する、外輪外径の中心軸の直角度として規定しているので、許容値がJIS B 1514-1:2006に対して半分の値となる。

7) JIS B 1514-1:2006ではテーパ穴の基準テーパ角度の1/2(半角)であったが、ISO 1119の説明に基づき、円すい台角度(全角)に変更された。

表 1-2 スラスト軸受の呼び寸法記号, 特性記号の幾何特性記号, 指定条件記号の説明と従来用語との比較

呼び寸法記号 ¹⁾	特性記号 ¹⁾	幾何特性記号及び指定条件記号 ²⁾	説明 ³⁾	従来用語 ⁴⁾
d			単式軸受の軸軌道盤の呼び内径	単式軸受の軸軌道盤の呼び内径
	Δd_{mp}		任意の横断面において, 軸軌道盤内径の(2点測定から得た)中間サイズと呼び寸法との寸法差	単式軸受の軸軌道盤の平面内平均内径の寸法差
	Vd_{sp}		任意の横断面において, 軸軌道盤内径の2点間サイズの最大値と最小値との差(範囲サイズ)	単式軸受の軸軌道盤の平面内内径不同
d_2			複式軸受の中央軸軌道盤の呼び内径	複式軸受の中央軸軌道盤の呼び内径
	Δd_{2mp}		任意の横断面において, 中央軸軌道盤内径の(2点測定から得た)中間サイズと呼び寸法との寸法差	複式軸受の中央軸軌道盤の平面内平均内径の寸法差
	Vd_{2sp}		任意の横断面において, 中央軸軌道盤内径の2点間サイズの最大値と最小値との差(範囲サイズ)	複式軸受の中央軸軌道盤の平面内内径不同
D			ハウジング軌道盤の呼び外径	ハウジング軌道盤の呼び外径
	ΔD_{mp}		任意の横断面において, ハウジング軌道盤外径の(2点測定から得た)中間サイズと呼び寸法との寸法差	ハウジング軌道盤の平面内平均外径の寸法差
	VD_{sp}		任意の横断面において, ハウジング軌道盤外径の2点間サイズの最大値と最小値との差(範囲サイズ)	ハウジング軌道盤の平面内外径不同
T			単式軸受の呼び軸受組立高さ	単式軸受の呼び高さ
	ΔT_s		単式軸受の軸受組立高さの最小外接サイズと呼び寸法との寸法差	単式軸受の実軸受高さの寸法差
T_1			複式軸受の呼び軸受組立高さ	複式軸受の呼び高さ
	ΔT_{1s}		複式軸受の軸受組立高さの最小外接サイズと呼び寸法との寸法差	複式軸受の実軸受高さの寸法差
	$Se^{6)}$		スラスト円筒ころ軸受 ハウジング軌道盤の軌道面と背面の, 2面間の2点間サイズの最大値と最小値との差(範囲サイズ)	ハウジング軌道盤の軌道の厚さ不同
			スラスト玉軸受 ハウジング軌道盤の外径中心軸を通る任意の縦断面上において, 軌道溝と対向する背面との間の, 最大内接球サイズのうちの最小のもので, 最大値と最小値との差(範囲サイズ)	
	$Si^{6)}$		スラスト円筒ころ軸受 軸軌道盤の軌道面と背面の, 2面間の2点間サイズの最大値と最小値との差(範囲サイズ)	軸軌道盤の軌道の厚さ不同
			スラスト玉軸受 軸軌道盤の, 内径中心軸を通る任意の縦断面上において, 軌道溝と対向する背面との間の, 最大内接球サイズのうちの最小のもので, 最大値と最小値との差(範囲サイズ)	

注 1) JIS B 0124で規定している記号。

また, 各特性の許容差及び許容値は, 例えば, $t_{Vd_{sp}}$ のように, イタリック体の“ t ”に続く特性記号で表される。

2) JIS B 0420-1で規定している記号。JIS B 1514-2:2017附属書Dを参照。

3) JIS B 0420-1を基にした説明。

4) JIS B 1514-2:2006の用語

5) 重力方向記号, 固定部品記号及び可動部品記号は, ISO/TS 17863による。

6) 接触角90°のスラスト玉軸受及びスラスト円筒ころ軸受にだけ適用する。